

大不況期の過ごし方を考える(2)

- 毎日を大切に生きよう -

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：大不況に入ったといわれますが、どのように過ごしたらよいのですか。

A：(林明夫。以下省略)なぜ大不況になったのか、どのようにこの大不況の時期を過ごしたらよいのか、乗り越えたらよいのかを、新聞を読んで考えることをお勧めします。年末・年始には大不況についての大特集が組まれますので、じっくり新聞を読み込むことが大切です。TV やラジオ、雑誌も「大不況」特集を組みますので、大いに勉強して下さい。新書本などで単行本もどんどん出版され始めましたので、腰を落ち着けて本をゆっくり読んで、「大不況」について考えてみましょう。

まずは、どうしたらよいかを「自分の頭」で考えることです。自分の身は自分で守る以外にありません。

Q：塾長は、相変わらず厳しいですね。

A：「大不況」について新聞などで自分なりに勉強した上で、2008 年秋からは何年か前の状態とは全く違った状況に世界中が入ったと考え、つらいかもしれませんが、少し厳しく、まじめに毎日をお過ごしになるほうがよいと考えます。

Q：具体的には、どうしたらよいのですか。

A：学校で勉強できる現在の自分は「幸せ」であると考え、学校での教科の勉強はもちろんのこと、部活動、クラブ活動、学校行事、学級会活動などすべての学校での教育活動に、まじめに、真正面から取り組むことです。

学校での勉強は、教科も、教科以外のすべての活動も、世の中に出てすべて役に立ちます。厳しい経済状況の下でも「学校や開倫塾で学ぶことのできる幸福」を十分にかみしめて、学校や開倫塾での1時間1時間を大切に大切に過ごして下さい。

学校の授業で「理解」したことは、「音読練習」「書き取り練習」「計算・問題練習」の「定着のための3大練習」を丹念にやり抜き、すべて正確に身に付けること。「予習」でも「理解」することはできるので、「予習の仕方」を自分なりに身に付け、一人で「予習」できる科目は誰に遠慮することなくどんどん「予習」をし、「得意科目」を一つでも多くつくること。

「理解」できないこと、つまり、よくわからないことがあったら、学校や開倫塾の先生に遠慮なく質問することも大切です。

学校や開倫塾の先生を、大切なことを教えて下さる「恩師」として尊敬すること。学校や開倫塾、様々なところで共に学ぶ友人は、「学友」として励まし合うこと。家族は互いに尊敬し合い、大切

にすること。

状況が厳しいのですから、身近にいる家族や先生、友だち、地域の人々を尊敬し、かけがえのない大切な方々を、自分と同じように、また、自分以上に大切にすることです。

今やっていること、自分の身近にいる人すべてを慈(いつく)しみ、大切に大切にすること。あらゆるものやあらゆる人を、そのまま認めること。許すこと、寛容な心・広い心を持つことが、大不況期の大切な過ごし方だと私は確信します。議論は十分すべきですが、争わないこと、協力し合うことが大切です。

Q：何か特別にやったほうがよいことはありますか。

A：物やお金は大切にすることです。物やお金がなくても、恥ずかしいと思わないこと、欲しがらないこと、我慢すること、もっと言えば、耐え忍ぶことが大切です。耐え忍ぶのも大切な能力です。

これからは、物やサービスが今までのように買えないことが多くなりますので、耐え忍ぶ能力が身に付いていないと、人の物を盗んだり、人をだましたりすることになります。

身のまわりの物を大切に使うこと、購入したサービスを上手に活用することも大切な能力となります。

私の今乗っている自動車は、先日、走行距離が 51 万 7 千キロを超えました。自動車の性能がよく、また、整備会社の人々の能力が高かったためと思われるが、大切にすれば 50 万キロ以上走る自動車もあります。

Q：最後に一言どうぞ。

A：私は、皆様にも足利商工会議所が推進している「5S」をお勧めします。「5S」とは、「整理(せいり)」「整頓(せいとん)」「清掃(せいそう)」「清潔(せいけつ)」「躰(しつけ)」を表すローマ字の頭文字 S をとったものです。

「躰」とは、「美しい立居振舞(たちいふるまい)」と「敬語表現を含む言葉遣い(ことばづかい)」を意味すると私は考えます。

大不況の時期こそ、自分のことだけでなく、「高い志(こころざし)」「公共(こうきょう)の精神」を持って、社会のために生きることを考えることも大切だと思います。

皆様はどのようにお考えになりますか。

新年もよろしくお願いいたします。

- 2008 年 12 月 17 日記 -

(宇都宮大学大学院工学研究科客員教授)
栃木県社会教育委員